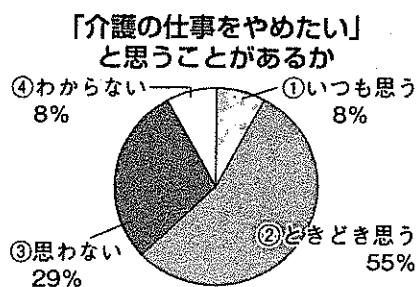


介護労働の実態調査 長野県民医連

長野県民医連

やりがい75%やめたい63%



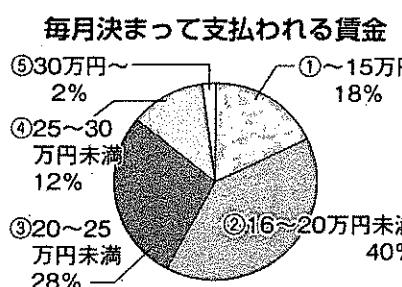
朝倉涼子委員長は「高齢者が増え、厚生省は財政的に『厳しい』というが、社会保障の考え方とは違う。国の責任で利用者の負担を増やす、介護報酬を考へるべきだ」「介護報酬が増えなければ、人手不足は深刻化し、事業としても成り立っていない」と述べました。

調査は昨年10月、県内の約900の事業所で、調査票を送付し職員3人の回答を求め年末までに456人の回答がありました。

長野県民医連事務局でアンケート集計担当の川北邦雄さんは、「民医連外の回答がおよそ3分の2とし、「初めての調査にもかかわらず、多くの回答を得たこと自体、介護をめぐる事態の深刻さを反映している」と語りました。

アンケートでは、介護の仕事を「ひとの役に立つことができる」「専門性をいかした仕事」だとして、75%の人が「やりがいがある」と答えています。

過半数が賃金月20万円未満



会員では厚労省の賃金統計も引用し、他の産業平均よりも「8万8800円下回っている」と述べました。「疲労回復」については、「疲れが翌日に残ることが多い」と答えた人が41%、「休日でも回復せず、いつも疲れが翌日に残ることが多い」は15%でした。

介護職場での「おもてなし」で、多くの回答を得たこと自体、介護をめぐる事態の深刻さを反映している」と語りました。

賃金では、「毎月決まって支払われる賃金」を聞いて、「とても多く次いで」「仕事が忙しすぎるから」「体力が続かないから」と続きました。

一方、「やめたい」と思うことは、「いつも思う」8%、「ときどき思う」55%、あわせて63%。「やめたい」理由では、「賃金が安いから」が一番多く、次いで「仕事が忙しすぎるから」「体力が続かないから」と続きました。

賃金では、「毎月決まって支払われる賃金」を聞いて、「とても多く次いで」「仕事が忙しすぎるから」「体力が続かないから」と続きました。

一方、「やめたい」と思うことは、「いつも思う」8%、「ときどき思う」55%、あわせて63%。「やめたい」理由では、「賃金が安いから」が一番多く、次いで「仕事が忙しすぎるから」「体力が続かないから」と続きました。



調査結果を見せて発表=23日、長野県庁

1/27 五夜

アンケートでは、介護の仕事を「ひとの役に立つことができる」「専門性をいかした仕事」だとして、75%の人が「やりがいがある」と答えています。

会員では、介護現場で働く職員も発言。介護老人保健施設で働く男性は、「やりがいを持ちながらも、さまざま不安から離職を考える職員が多数いることが明らかになった」と述べました。特別養護老人ホームで働く男性は、「現場で働く仲間から本音のアンケートが集まった。この声をしっかり届け、介護職員の待遇改善につなげたい」と語りました。

介護利用者や家族から寄せられた声も紹介されました。

「毎日、ヘルパーさんになってもらひ、家事援助なども生活がなりたつていいです。今まで通りかかる介護保険サービス」と望んでいました。